はじめに

「古墳」とは古代に造られた有力者のお墓のことをいいます。

その代表例が「仁徳天皇陵」や「応仁天皇陵」などと呼ばれる「天皇陵」で、古墳と聞くと多くの人は、畿内地方（現在の大阪府周辺）にあるこうした巨大な前方後円墳を思いうかべることと思います。

一般的に古墳時代とは、「古墳が多く造られた時代」という意味で使われ、歴史的にみると3世紀半ばから7世紀末頃までのことを指しています。

群馬県（毛野国）も古墳の多いところとして知られていますが、この時代の館林・邑楽地域の様子はどうだったのでしょうか。

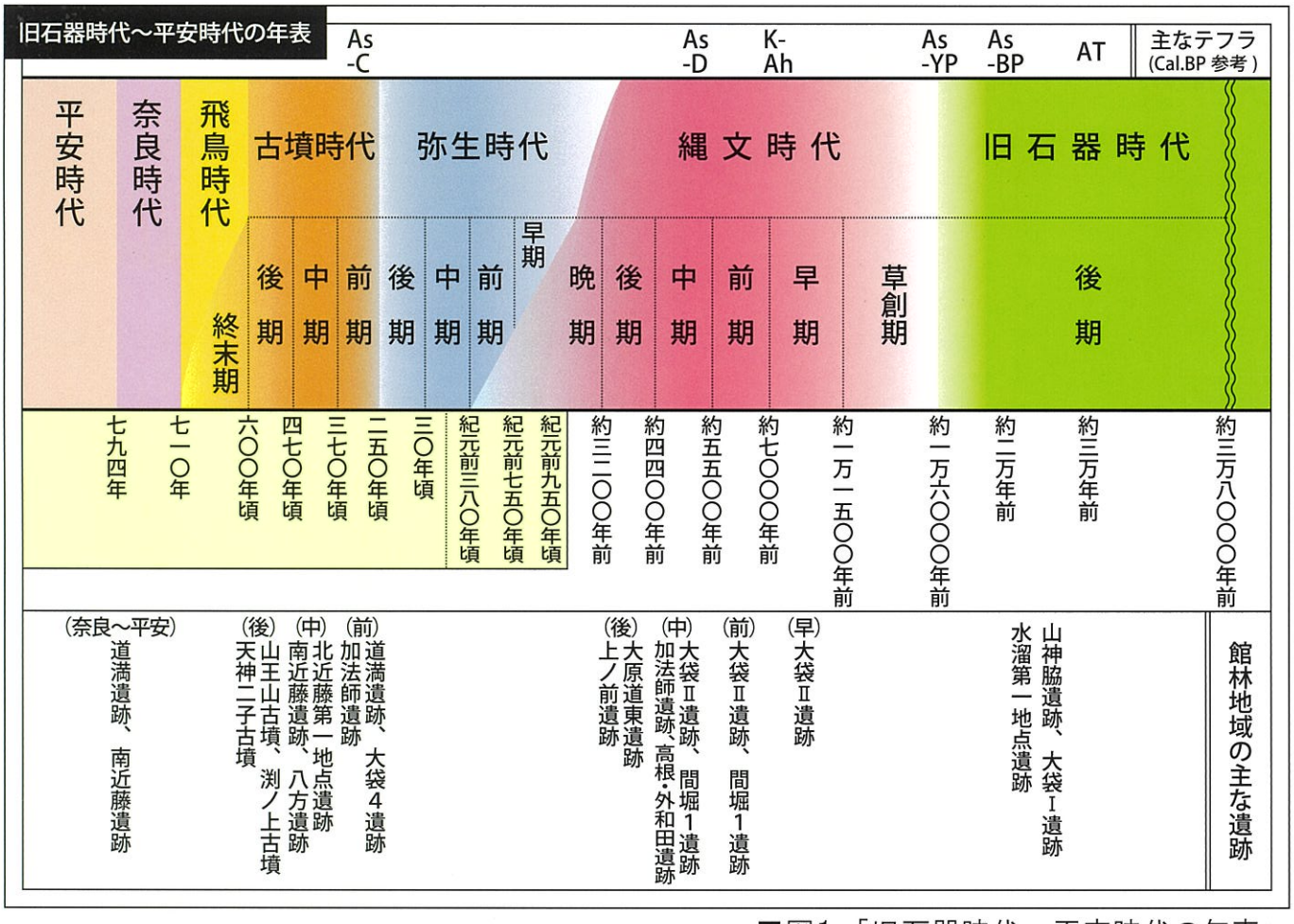
古墳を造営した有力者がいたということは、そのまわりには有力者を支えた人たちがいたということで、こうした人々は稲作をおこないながら、集落をつくって生活をしていたと考えられています。

今回の特別展では、当時の有力者の墓とされる「古墳」と、その有力者を支えた人々が生活をしていた「集落」の二つの面からとらえ、発掘調査の出土品などから古墳時代の様子を探ります。

また、併せて群馬県教育委員会、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の協力により、平成24年(2012年)度に渋川市金井東裏遺跡で発見され、全国的に大きな話題となった「甲を着た古墳人」(レプリカ)を東毛地区で初めて展示します。

この展示を通して、館林・邑楽地域の古代の有力者の様子や、それを支えた人々の暮らしに思いを巡らせていただければ幸いです。

館林市教育委員会



■図1 「旧石器時代～平安時代の年表」